



オアシス

文責：副学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2018年10月10日発行 第6号

秋も深まり一雨一度（雨が降るごとに1度気温が下がるの意）の季節となりました。昨今の気象変化により、夏から一気に冬という現象が多くなり、過ごしやすい春や秋の期間が少なくなりつつあります。この貴重な季節を大切に過ごしたいものです…。

全国的な明るい話題として、京都大学特別教授の“本庶 佑”さんがノーベル医学生理学賞を受賞されました。同じ日本人としてとても誇らしく思うと共に、私たちへの励ましのメッセージとして受け止め、生きる喜びを与えてくださったように思えます。

◎ 大人のコース「別科」を紹介します。

これまで、本アカデミー音楽院の「幼児科」、「本科」を紹介して来ましたが、今回は大人も学べる「別科」の様子を紹介します。本アカデミーでは、生涯教育を目指していますので、一般社会人の皆様が、音楽を通してより生き甲斐をもちながら人生を有意義に過ごせるよう有料ですが講座を開設しています。勿論、「幼児科」や「本科」で学んできた皆さんも豊かな生活を維持し続けるために、是非継続してほしいと願っています。

「別科」の講座は、4コース開設しています。

◆合唱コース【コーラス・レパートリー】

日本・世界の名曲、ポピュラー曲等、いろいろな合唱曲を楽しく合唱しています。また、豊かな響きとハーモニーを感じることができるよう、発声や歌い方の基礎を学びながら美しい歌声を追求します。現在は、女声、男声あわせて60名のメンバーが在籍しています。18歳以上であればどなたでも加入できます。特に男声の方の加入は大歓迎です。



歌ってストレス解消！

◆オペラコース【アクティング・クワイア】

「ミサ」と「オペラ」について、基礎知識と表現技法を学び、「歌う・動く・考える」ことをモットーとした合唱に取り組んでいます。毎年3月に公演される「出雲の春音楽祭」で練習した成果を発表しています。今年度は、ドニゼッティの歌劇『愛の妙薬』に挑戦します。高校生以上の方が加入できます。



声よもっと遠くへ！

◆オーケストラコース【オーケストラ・レパートリー】

リハーサル形式の講座を通じて、様々な作曲家の代表的なオーケストラ作品に触れ、作曲家の意図した表現を追求しながら、名曲をレパートリーとすべく探求しています。また、指揮者やコンサートマスターの指導のもと、楽曲様式、音楽のしくみ、時代背景や作曲家の思想などを学びながら、作品



豊かな響きを求めて！

の本質を再現することを目指しています。18歳以上の経験者が加入することができますが、楽器により制限があります。

◆邦楽コース【邦楽合奏】(箏) ♪♪♪

邦楽器の伝統的な奏法・技法を踏まえたうえで、より発展的な日本音楽を合奏として追求しています。指揮者による合奏指導を通じて合奏技能と表現力の向上を目指し、指揮を見る力を養いながら流派を超えた新しい邦楽合奏の響きを作りあげています。また、洋楽器とのコラボレーションなどの新しい試みにも挑戦しています。18歳以上の経験者が加入することができます。



指揮と息がピッタリ！

◎ 「考える力」がキーワード！

長らく教育現場に身を置いていると思うことは、指導方法の質が変わってきたことです。以前であれば指導者中心のいわゆる「詰め込み教育」が主流でした。基礎基本を徹底して教え込む段階ではある意味一定の成果は出せていました。しかし、自分の力で課題を解決したり、考えを発言する能力は苦手でした。それらの反省を含めて教育方法が少しずつ変遷をたどり、教育を受ける側の主体性が重んじられる授業が主流となりました。その成果は、児童生徒のプレゼンテーション能力が著しく向上している姿を目にすることが多くなったことで理解できます。

これらのことは、音楽でももちろん言えることで、学校教育では部活動（吹奏楽・合唱等）であったり、本アカデミーのオーケストラ指導並びに合唱指導でも同じこととして捉えられます。かつて、自分が吹奏楽指導をしていた頃を思い出すと、部員の皆さんに考える場面を与えることは少なかったように思います。いわゆる指導者が一方的に指示を出し、指導者が納得のいくまで同じことを繰り返すスタイルです。部員は常に受け身の形なので、いつまでたっても指示が出るまで気が付かないことが多くありました。例を挙げれば、ピッチが合わない場面では、指導者がもっと上げて…。もう少し低めに…。などと指示を出さなければ修正しないことがよくあります。自分から耳を使って常に音が合っているかどうか判断し、合っていなければ自ら修正して行く行為が出来なければ、合奏技術の向上は期待できません…。

本アカデミー音楽院で学ぶ受講生の皆さんも受け身になっていませんか…？ 基礎・基本が身に着いたら、自ら求めて課題を解決していく力や考える場面を常に持ち続けることが、より高いレベルの演奏に近づく秘訣なのかもしれません…。

この度、ノーベル医学生理学賞を受賞された「本庶 佑」さんの言葉に、「教科書は信じるな、常に自分が納得いくまで追求することが大切」と語られたことと相通じるものがあるような気がします。



耳を使って考えて…！

つぶやき 本アカデミーを運営するには、予算が必要だ。受講生からの受講料、財団の本会計、出雲市からの補助、文化庁への補助申請から成立している。毎年、予算を獲得するには膨大な資料が必要となる。成果が出なければ予算カット、申請資料が不十分なら予算も出ない。事務局の苦労はつきることがない。アカデミーの継続は正に裏方にかかっている…。



